

第6問

【問い】。

織田幹雄さんのお墓は、神奈川県鎌倉市の東慶寺にあります。織田幹雄さんのお墓には、何という言葉がきざまれているでしょう。

- ①世界人
- ②精進
- ③強いものは美しい

【答え】

- ②精進

【解説】

織田幹雄さんは、いつも「精進」という言葉を大切にしていました。「精進」とは、一生けん命、努力することです。織田さんは、どんなにつらいことがあっても決してあきらめずに、努力してきました。

中学校時代、陸上部が大会に出ることができないと言われたとき、校長先生に「必ず優勝する」という約束をして、出場させてもらいました。織田幹雄さんは、その約束を守るために、今まで以上にたくさん練習をすることで、約束通り、大会で優勝することができたのです。

また、アムステルダムオリンピックに出場する前には記録が伸びず、新聞では「織田はもう限界にきている。」と取り上げられ、「限界説」が出てしまいました。当時、織田さん、走り高跳び、走り幅跳び、三段跳びと数多くの種目をこなしていました。アムステルダムオリンピックの2年前の1926年、三段跳びの最高記録は、14m65で前年の14m80にはおよびもつきませんでした。他の競技も同じように、記録がのびなやんでいたのです。そんな織田幹雄さんを見て「限界説」が出たのです。それでも、織田幹雄さんはあきらめず、自分の何がよくないのか、どうすればより高く跳べるのか、試行錯誤しながら、練習に励んだのです。そして、あのアムステルダムオリンピックで、日本人で初めて金メダルを取ることができたのです。

どんな困難にも立ち向かい、努力することを惜しまなかった織田幹雄さんのお墓には、織田さん自身が、刻んでほしいと言われた「精進」という言葉が、刻まれているのです。

【自分の考え】

織田幹雄さんから、最後まであきらめず、一生けん命努力することの大切さを学びました。これからは、何かいやなことがあっても、なかなかうまくできなくても、自分が決めたことに対して、「精進」していきたいと思います。

